

10月にSGカルチャー（飛鳥奈良研修旅行）を実施しました。

## SGカルチャー

平成29年10月14日（土）、15日（日）

### 《目的》

日本の貴重な文化財を現地で直接見聞することにより、文化財に対する興味・関心を喚起し、**日本の歴史と文化**に対する正しい認識を得る。また、国際的舞台で文化財修復に携わる研究者の講演を聴くことにより、国際協力に理解を深め、課題研究テーマの設定や探究活動の深化につなげる。

### 《内容》

**飛鳥・奈良の文化遺産**「石舞台古墳・伝飛鳥板蓋宮・飛鳥寺・飛鳥資料館・藤原宮跡・興福寺・東大寺法華堂（三月堂）・二月堂・法隆寺」を見学しました。**奈良文化財研究所飛鳥資料館**では、同研究所特任研究員の杉山洋氏より、「**アジアの中の日本を知る**」という演題で講演をしていただきました。また、地歴公民科教員からの研修場所に関する事前学習に加えて、参加生徒がそれぞれ研究テーマを設定し、研究についての成果を現地で発表しました。また、SGH歴史部生徒による歴史クイズや研修場所についての**研究発表**を行いました。



石舞台古墳の見学



杉山氏による展示解説



法隆寺での現地ガイドによる案内

### [参加生徒の感想]

石舞台古墳は、想像以上に奥行きがあり驚いた。石の積み重ね方などがとても興味深かった。伝飛鳥板蓋宮については、柱の跡しかなくて、そのイメージは最初湧かなかったが、SGH歴史部の解説等で掘めるようになった。

大仏殿は見られなかったが、秋の大祭の日に東大寺に行けたのはとても良かった。法華堂は、仏像を目前にしたお寺の方の話がとても興味深く、自分にはとつてもためになった。また、二月堂からの眺めがとてもよく、奈良の町が一望の下に見わたせました。

飛鳥資料館での杉山洋先生の講演はとても興味深かったです。カンボジアのアンコールワットの修復の仕方など発掘と修復をされている実際の方の話が聴けたのは貴重な体験だった。国際協力にも、文化財の修復という形もあることを知った。

法隆寺では、回廊で現地ガイドの方からエンタシス（柱）の話の聞いたり、仏像を見ることが出来て勉強になった。宝物館の仏像の展示は、信仰の対象というよりも、美術品として展示してある印象があり、一味違った面白さがあった。